

諸葛亮

孔明
一八一〜二三四

徐州琅琊国陽都県

35↑58／60↑67／70↑105

父の珪が卒すると、弟の均と共に従父の玄に従って、荊州に移住、襄陽郡の隆中の臥龍岡で晴耕雨読の暮らしをした。自らを管仲・楽毅に比し、崔州平・徐庶らを友とし、司馬徽を師とした。劉表の客将であつた劉備に、三顧の礼を尽くされ、漢室復興の基本戦略として「天下三分の計」を提案、北は天の時を占める曹操に譲り、南は地の理を持つ孫権と結び、人の和により荊州と益州を取ることを主張した。

関羽・張飛が亮の厚遇を嫌うと、劉備は「君臣水魚の交わり」と説いた。亮の指揮により、博望坡の戦いで、夏侯惇を火攻めで破ると、関羽・張飛も亮を認めた。

曹操が荊州に南下すると、新野から樊城の間で水攻めと火攻めで曹仁・曹洪を破った。劉琮から襄陽を取るよう劉備に進言するが従われず、長坂坡の戦いで敗れたのち、魯肅に同行して使者となり孫権に同盟を求める。弁舌で張昭ら降伏派を破り、周瑜を「銅雀台の賦」で焚きつけ、決戦に持ち込む。曹操から十万本の矢を借りて、周瑜の罠を切り抜け、周瑜と火攻めを確認する。七星壇で東南の風を呼び、趙雲に迎えられ陣営に戻り、曹操の敗走を華容道で関羽に待ち伏せさせる。周瑜が南郡を狙うと、それを取り、荊州四郡も劉備のものとする。周瑜が

憤死すると弔問し、龐統を劉備のもとに誘う。こうして劉備は挙兵以来、はじめて安定的な根拠地を確保できた。

劉備が入蜀すると荊州を守り、龐統が戦死すると張飛・趙雲を率いて劉備を救援、劉璋を滅ぼした。劉備の漢中攻撃に同行、張飛に酒を送り張郃を破らせ、黄忠・嚴顔を抜擢して、天蕩山を取らせた。黄忠が定軍山で夏侯淵を斬り、漢中を制圧した。劉備が帝位に即くと、丞相・録尚書事として国政を管掌する。関羽が荊州で殺された復讐に孫呉への東征を目指す劉備を止めたが、聞かれず、猇亭の戦いで劉備が敗退すると、魚腹浦に造つておいた石陣八陣に陸遜を迷いこませ、撤退させる。劉備の臨終には、白帝城で後事を託され、「劉禪に才がなければ、君が成都の主になってほしい」と告げられる。

劉禪が皇帝になると、五路から進入する曹魏軍を撃退、鄧芝を使者に呉と同盟を結び直す。反乱を起こした南中に自ら南征し、馬謖の進言に従って、南蛮を心服させることを目指す。孟獲と戦い、魏延が捕らえたが、陣を見せたうえで放ち、瀘水かわたり、董荼那に孟獲を捕らえさせたが放つ。孟獲の弟の孟優の偽降を見抜き、孟獲を馬岱が捕らえるが放ち、本拠地の銀坑洞を落として孟獲を捕らえるが放つ。禿龍洞の朶思大王の策による四つの毒泉を孟獲の兄の孟節の助言で越え、孟獲を捕らえるが放つ。木鹿大王の猛獣部隊を口から硫黄を吹き出す木製の猛獣で破り、孟獲を捕らえるが放ち、兀突骨の藤甲軍を焼き

払い、孟獲を捕らえるが放つと、ようやく孟獲は心服した。

二二七年、「出師の表」を劉禪に奉ると、漢中に駐屯、趙雲を先鋒に夏侯楙と戦い、韓徳と五人の子を趙雲が斬り、夏侯楙を捕らえて安定・南安の二郡を取った。姜維には手を焼くが、離間の計で味方につけ、天水郡を支配下に置き、夏侯楙は逃亡した。曹魏の明帝は、曹真・王朗・郭淮に迎撃させるが、曹真は大敗、郭淮が招いた羌族も敗退、王朗は亮に罵られて死んだ。鍾繇に推薦され司馬懿が復権すると、孟達の反乱を平定し、張郃を先鋒に三郡の奪回に向かう。亮は、馬謖を派遣して街亭で迎え撃つが、馬謖が命に背いて敗退、漢中に撤退し、泣いて馬謖を斬り、自ら右將軍に降格した。

「後出師の表」を劉禪に捧げて開始した第二次北伐は、郝昭の守る陳倉に、雲梯・衝車を使って攻撃したが落ちず、撤退すると、追撃してきた王双を斬った。

第三次北伐は、二二九年、郝昭の病気を機に陳倉を取った。

姜維に陰平郡、王平に武都郡を取らせ、劉禪から丞相に再任されると、司馬懿を撃破し、そのち軍を引いた。

第四次北伐は、曹魏からの攻撃を機とする。二二〇年、曹真が司馬懿と劉曄を率いて攻めてくると、張疑・王平に一千騎を率いて、赤坡と城固で守備を命じ、曹魏の大軍は陳倉で長雨に降られて退却する。亮は斜谷から祁山に出て、追撃してこれを撃破する。亮の指揮に不満を持った陳式を斬ったが、魏延は武

力を惜しみ許した。そして曹真に手紙を送り、憤死させる。曹真に代わって指揮を取る司馬懿は、陣立ての勝負を挑み、亮の変化する「八卦の陣」に大敗した。しかし、亮は、食糧輸送を怠けた苟安の逆恨みにより窮地に陥る。亮は、電を増やしながに撤退する後漢の虞詡の法を用い、司馬懿を出し抜き、成都に戻って、苟安の流言に動揺した劉禪に謁見し、蔣琬・費禕の訓導不足を叱責した。

第五次北伐は、二二一年、隴上に出て、八門遁甲の術により六丁・六甲を用いる縮地の法に見せかけ、司馬懿を翻弄して麦を刈り、懿を撃破したが、李嚴が呉の侵入を伝えてきたので撤退、途中、木門道で張郃を斬った。

第六次北伐は、二二四年、孫呉に挙兵を促すと共に、木牛・流馬を利用して兵糧を輸送した。上方谷に司馬懿をおびき出し、火攻めで追い詰めるが、豪雨により懿は生き延びる。五丈原に進軍したが、すでに病篤く、持久戦を強いる懿に対して、寿命を伸ばす祈禱をするが、実らなかった。将星が落ちるのを見て、劉禪の使者である李福に、後継者として蔣琬・費禕の名をあげると息絶えた。

司馬懿は天文を見て、諸葛亮の死を知り、攻撃をかけるが、四輪車に端座する諸葛亮の木像を見て、逃げ戻った。劉禪は、亮を定軍山に葬り、忠武侯と諡して、沔陽に廟を建て季節ごとに祭祀を行った。

操乳挾唇生
髭勤尚髭孤
焚戈振營寨
經策勝燎吳
燦一出師表
當二八陣周
如此固盛強
應嘆點今霖

諸葛亮



縵巾（青糸の綴で作った頭巾）は、諸葛亮とも呼ばれる諸葛亮のトレードマークである。手に持つ羽扇は、周瑜の持ち物とされた時期もあるが、『演義』では、諸葛亮だけが持つ。